

## モニタリングシート（養護・福祉教育学専攻）

No.	モニタリング項目	データ	データから見る点検結果（概要）	課題	改善へのアクション
1	前年度の向上・改善施策の実施状況（成果・課題・継続事項）はどのような状況か。	・自己点検・評価から見る課題に対する向上・改善施策	向上・改善施策を踏まえ、学科 FD 研修 をはじめとして、専攻内での問題意識の共有や関連事項の検討を進めた。しかしながら改善には至っていないため、引き続き FD 研修をはじめとして専攻内で共有を図りながら取り組みを進める。	「カリキュラム表現やシラバスの記述のわかりやすさ」について、満足度が低いことが、「学んだ成果に対する評価のされ方」に対する不満と連動している可能性があると考えられる。シラバス作成の工夫とともに、シラバスに記載されている評価方法について学生への丁寧な説明が必要である。専攻として課題共有を行い改善の検討を進める。	今年度の FD で関連するテーマの研修を実施する。（※FD 企画シート参照）
2	経年でみた志願者動向はどのような状況か。	・各種入試結果（入試区分別・高校ランク等）	入試広報課からの報告および学科内で志願者状況の把握に努めた。引き続き専攻内で志願者動向の共有を図ると共に、新学部として入試広報課とも協力して大学案内の作成や高校訪問を継続して行う。	本専攻の動向として、総合型選抜（AO）、指定校の志願者が多いため、新入試制度の魅力を大学案内でうまく魅せられるよう、入試広報課と積極的にコミュニケーションを図る。	専攻内で入試広報委員を中心に魅力向上のポイントを議論し、必要な事項については検討を進め、可能な限り実行する。
3	経年でみた新入生の動向はどのような状況か。	・新入生アンケート（第一志望・選択理由・本学への期待等）	養護・福祉教育学専攻では、資格取得のための学びたい学問があると回答している学生が多いため、毎年、新入生ガイダンスでは資格取得についての説明を特に丁寧に行っている。	特になし。	特になし。
4	DP・CPと連関したカリキュラムが各学位プログラムレベルで適切に設計されているか。	・カリキュラムマップ状況 ・ALCS学修行動比較調査（経験） ・卒業時アンケート（経験）	各授業の DP 修得の実態の関連を把握して CP と DP の連関を意識する。	特になし。	全学の DP の見直しのスケジュールに合わせて、新学部新学科 DP の見直しを行う。

No.	モニタリング項目	データ	データから見る点検結果（概要）	課題	改善へのアクション
5	カリキュラム・授業は、適切に運営されているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業アンケート</li> <li>・ALCS 学修行動比較調査（経験）</li> <li>・卒業時アンケート（経験）</li> <li>・最低修業年限卒業率</li> </ul>	シラバスの「課題に対するフィードバック」についての学生の評価が芳しくなく、特に大人数の場合はフィードバックが煩瑣となる。どうすれば学生が満足のいくフィードバックをすることができるのか、それをシラバスではどのように書いたら良いのかをシラバス作成から考えるためのFD研修等を実施する。	対面・オンライン・オンデマンド授業等の 授業形態の考え方やその効果についての検証や把握が不十分であるため、専攻内で把握・検証を進める必要がある。	学科の特性に応じた授業形態の考え方やあり方の検討や改善が必要な授業があれば向上・改善に努める。
6	DP にもとづく学修成果の到達度の状況。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ジェネリックスキル測定テスト（3回生）</li> </ul>	専攻内で身につけてほしい DP の修得度の学生実感やジェネリックスキル測定テストでの修得状況は概ね良好である。	特になし。	特になし。
7	進路・就職及び免許・資格取得状況。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ALCS 学修行動比較調査（修得度）</li> <li>・卒業時アンケート(修得度)</li> <li>・進路・就職結果</li> <li>・免許・資格取得状況</li> </ul>	進路・就職状況に大きな偏りはなく専攻の特徴を反映している。専攻としてポイントとしている免許・資格が取得状況は概ね期待する水準に達している。	一定の免許・資格の取得を維持できており、特に大きな課題はない。進路・就職状況に大きな課題はない。	引き続き専攻内で進路・就職あるいは免許・資格の取得状況を把握し、変化が生じた際、すぐに対応できるように備える。
8	各科目の成績および卒業論文・研究が適切に評価されているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各科目の成績分布</li> <li>・卒業論文・研究の判定結果</li> </ul>	成績分布や卒業論文・研究の判定においては、データ上大きな問題もなく、適切に評価がなされている。	現状問題はないものの、専攻としての成績評価や卒業論文・研究の判定の考え方や基準は曖昧あるいは各教員の裁量となっており、学科内での考え方の共有が必要である。	専攻内で成績評価および卒業論文・研究の判定について今後、検討余地がある旨、共有を行い、意識付けを実施する。
9	職位・年齢のバランス、非常勤比率に留意し、かつ、カリキュラムに基づく教員組織となっているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・所属教員の状況</li> <li>・科目群別非常勤比率</li> </ul>	教員の職位・年齢・性別バランスや非常勤比率に特に問題はなく、バランスがとれており、カリキュラムや学修成果にも大きな問題はない。引き続きカリキュラムの状況や学修成果の状況と教員構成のモニタリングを継続して行っていく。	特になし。	特になし。

No.	モニタリング項目	データ	データから見る点検結果（概要）	課題	改善へのアクション
10	学科個別のFDについて、課題認識および今後の方向性、外部環境を踏まえたFDを実施できているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・FDの取り組み状況</li> <li>・前年度点検シート</li> <li>・自己点検・評価から見る課題に対する向上・改善施策</li> </ul>	課題に対してのFD研修が開催できている。	各種課題に対して、一部の課題に対応するFDしか取り組めず、今後他の課題への対応も必要である。	各課題や今後の方向性も鑑み、様々なテーマのFDが実施できるよう、対面での講演にこだわらず多様な実施方法でのFD研修を開催する。
11	上記以外で「継続すること」「課題」「次へのアクション」「全学レベルで検討すべき事項(提案)」があれば入力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種データ</li> </ul>	特になし	2年生の定員が大幅に増加しているため、看護臨床実習病院や福祉施設の実習等の開拓が新たに必要となり、教員の負担が増している。対応策の検討が必要である。	教務課と協力して、対応策の検討を進め、学生の希望通りの資格所得を進めるための対策を講じる。